
手遅れ

上村忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
手遅れ

【Nコード】
N99460

【作者名】
上村忍

【あらすじ】
で?で?で?

その後どうなったの?

「で、で、で？」

「いや、だからさ、怖いものっていうのは、人間の想像力には勝てないって話さ」

「うーん、よくわからないぞ。もう少し詳しく説明してくれ」

「簡単に言うと朝の占いってあるじゃん」

「うんうん、俺、めざましテレビ派」

「なんでもいいんだけどさ、ちなみに何座？」

「てんびん座さ、大塚さんと一緒なのさ」

「それでさ、1位だったら嬉しいじゃん」

「そりゃね、もう勢いついちゃうよね」

「ビリだったら凹むでしょ？」

「うん、がっかり。大抵ついてないこと多いし」

「けどさ、毎日の生活の中で、凹むことってたくさんあるじゃん。たくさんある中の、たまたまその時運勢が悪かったら、あーやっぱり、って運勢のせいにしちゃってるのよ」

「なるほどなるほど。でも、さっきの怖い話と何がつながるの？」

「いやだから、人間の想像力がそういう付加価値をくっつけてしまつてさ、それで怖くなるってことさ」

「まだわかんない。詳しくいうとどういうこと？」

「簡単に言うと、本村さんっているでしょ？」

「うん。辛い話だよね」

「俺はさ、あの話聞いてすごく怖くなったのよね」

「どうして？」

「うちにも奥さんとチビがいるからさ。あれから、ゴミ出しに行ったりするときもカギをかけるようにしたのさ。もちろん、俺が朝家を出るときもしっかりカギをかける。もし、かけそこねたその1回で何かあるかと思っちゃうのよ」

「おおげさだよー！」

「そうかとも思うんだけど、そのたまたま一回が！って思うと怖くなるんだよね」

「言われてみればなあ、わかるような気がする」

「そうやって人間の想像力の方がより怖くなるってことさ。血がビシャビシャ出るような映画はその場は怖いけど、作り物だって割り切れるじゃん」

「そうだね〜でも、最近はおながち作り物じゃないよ」

「いや、そうだけどさ。でも、世にも奇妙な物語のテーマソングとか、聴いただけで怖くなるでしょ？」

「わかるわかる。デレレレ、デレレレレ、デレレレツテ、テレレレレーって奴でしょ？」

「そうそう。あれとタモリで充分お腹いっぱいだよ」

「あー、なんとなく言いたいことがわかってきたよ」

「そうか、良かった。でさ、じゃあどんな話が怖いのかってことに戻るよ」

「うんうん」

「やっぱり身近で想像できることが怖いんだと思うのさ」

「わかるけど。例えば？」

「うーんとね・・・例えば、地下鉄の連絡通路、あそこを歩いてるとするでしょ？」

「はいはい」

「丸井の横から、地上に出るまでもいいや。あそこを歩いてて、ふっと気付いたら、回りに誰もいないの」

「ちょっと遅めならありうるよね」

「それでね、ゾワッってきて、少し早歩きになるんだ」

「うんうん」

「でね、前から一人歩いてくるの」

「うんうん」

「見ると、腕がないの。左腕」

「おわーっ、なんかゾクゾクする」

「おばさんのさ。40代くらい。でも、目の焦点とか合っていない。どこ見てるかわかんない感じ」

「リアルな設定だなあ」

「引き返そうにも引き換えしたら、なんか追っかけてきそうでしょう？だから、そのまま通りすぎようとするの」

「振り返るのもいやだなあ・・・」

「でしょ？斜め45°見てさ。もう完全に視線合わせないようにして。通り過ぎようとしたら・・・」

「したらしたら？」

「何にもないの。普通に通り過ぎるの」

「えーーーーー！がつくりだよーーーーー！普通かよ」

「でもね、ぼそつと言言うの」

「なんて？」

「もう手遅れだよ、って」

「うわぁ・・・また、ゾクツてきたんだけど」

「それで、ふと気付くと何にもなってなくて、普通なの。人とかいてさ」

「いやぁ、なんか嫌な感じだな」

「でしょ？ボディブローみたいでしょ？」

「そうだね、当分地下街歩きたくないね」

「ははは、でも、もう遅いよ」

「何が」

「手遅れって言ったじゃん」

「へ？」

「手遅れって言ったじゃん」

「いや、言ったけどさ」

「聞いたでしょ？だからもう手遅れなのよ」

「何言ってるのよーやめろよ、気色悪いなあ」

「・・・だな。なーんて、ただの作り話だよ」

「いや、あせったあーやめれやな」

「ま、何が言いたいかというと、人間の想像力ってを刺激すると怖くなるって話さ」

「もう怖い話はお腹いっぱいだよ」

「んじゃ、そろそろ終電だから帰ろうか」

「そうだね」

「あ、さっきの話は続きがあったさ」

「もうやめろよ」

「手遅れになる前に、他の人に話さなきゃならないのよ」

「いいってもう。んじゃ俺は帰るよ」

と、いう話をした帰り際に書いた日記でした。

手遅れになる前に。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9946o/>

手遅れ

2010年11月19日03時07分発行